

東京でのシンポジウムに被災三県から小学生が参加しました



左・中
七郷小学校
大野小学校



右・パネルディスカッション



3月27日、東京のユニセフハウスで『未来をつくる私がおとなに伝えたいこと～子どもと築く復興まちづくり』を開催しました。日本ユニセフ協会は、ユニセフの知見を元に、東日本大震災緊急・復興支援の一環として、「子どもにやさしい復興」事業を展開。岩手・宮城・福島3県で、地元自治体や地域の様々なイニシアティブをサポートしています。本シンポジウムでは、子どもたち自身が、震災の教訓や地域の復興や防災について学び、考え、地域社会に提案している姿を、ユニセフが提唱する“子ども参画”の具体例の一つとして紹介されました。福島県相馬市からは大野小学校、宮城県は七郷小学校、岩手県からは大槌小学校の6年生が発表とパネルディスカッションに参加しました。大野小学校は、「相馬の復興のために～こうして相馬を盛り上げたい」として、町の状況を発信するパンフレットやTシャツ、菓子、マスコットなどの商品開発を紹介。七郷小学校は「未来の七郷まちづくり」を発表。大槌小学校は「未来の教室を考えよう」でみなで考え出した備蓄倉庫や教室の中のトイレ、昼食スペースのアイデアなど、2016年に開校される「おおつち学園」の新しい校舎の随所に反映されるとのこと。子どもたちから世界に向けての発信として「普段からの交流があれば助け合える」「原発事故や津波の対策を日ごろから行うこと」「恩返しとして何か支援したい」などの意見もありました。学校で学ぶこと・遊ぶこと・家族や友だちと話すことの大切さを再認識させられました。『子どもの心は小さいのです。子どもの少しの変化に気づいてほしい。』

ふじ幼稚園卒園式

3月15日、山元町のふじ幼稚園の卒園式に出席しました。震災後にユニセフが新たな園舎建設を支援した関係



から、卒園式や入園式に招待されています。この日52名の園児が元気に卒園し、4月からは小学1年生になりますね。

フィリピン台風緊急募金にご協力いただきました

3月7日、登米市立米山中学校の募金贈呈式に伺いました。校外での募金活動の成果により、17万円余のご協力がありました。直接生徒の皆さんにお礼を述べさせていただきました。ほかにもJA仙台女性部、日本製紙労



働組合石巻支部の皆様が募金を届けてくださいました。小中学校での取り組みも多く、フィリピンの長期的な支援に役立てられます。

3月18日、日本製紙様

『東日本大震災 日本ユニセフ協会 緊急・復興支援活動3年レポート』を発行しました

震災から3年が経ちました。3年間でユニセフに寄せられた募金は47億円になりました。3年目の支援活動の状況をまとめた3年レポートが発行されました。「心理社会的ケア」「子どもの保護」「子どもにやさしい復興計画」の分野で、今後3年間の支援が継続されます。子どもたちにとって「震災前よりも良い環境」～子どもたちが住む地域や子どもたち自身が“レジリエント”（迅速でしなやかな回復力がある）な社会が被災地に生まれることをめざして、支援を続けています。3年レポートをご希望の方へお送りいたします。お気軽にお申し込みください。

宮城県ユニセフ協会 〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協ウイズ1F

Tel 022-218-5358 Fax 022-218-5945 E-mail sn.unicef_miyagi@todock.jp

新しい情報はホームページが便利です <http://www.unicef-miyagi.gr.jp>

事務所：月曜日～金曜日

10：00～17：00

上記以外 070-6617-6284(五十嵐栄子)